

# 自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) 川崎重工業(株)明石工場

## 1 環境保全活動に関する方針等

### 1-1 環境保全活動に関する方針

#### 基本方針

川崎重工グループは「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与することを基本に据え、「陸・海・空にわたる基礎産業企業」としてグローバルに事業を展開する中で、地球環境問題の解決を図るため、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」および「自然共生社会の実現」を目指し、環境に調和した事業活動と地球環境に配慮した自社製品・サービスを通じて、社会の「持続可能な発展」に貢献します。

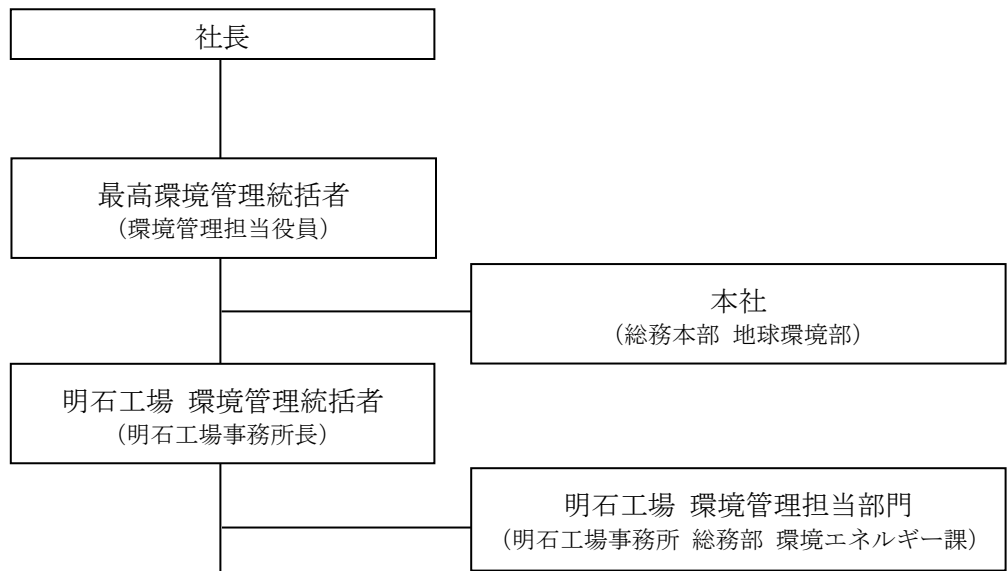
#### 目標・計画・実施状況の公表方法

川崎重工の環境ならびに社会活動を広くステークホルダーにお伝えするために、1999年から毎年発行している「Kawasaki Report」「Kawasaki 環境報告書」にて公表し、当社ホームページにも掲載しています。

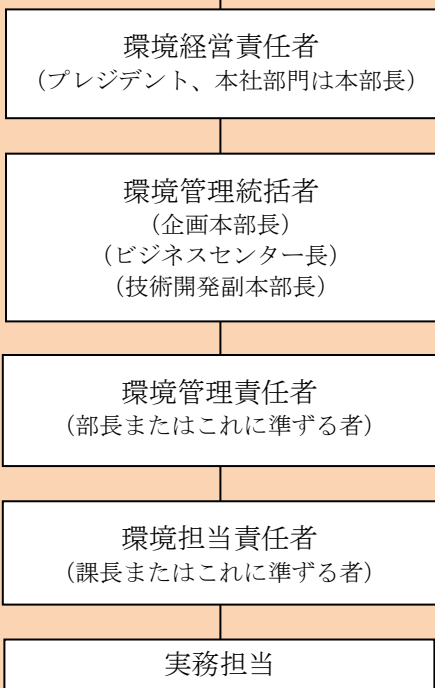
2016年度は、持続可能なエネルギー社会を目指し、「Creation of ENERGY」と題したパンフレットを作成しました。内容としては、当社が製造する高効率なエネルギー製品(高効率なガスタービン・ガスエンジンの発電設備や、高効率なボイラー・冷凍機等)、当社の水素エネルギー導入に関する取り組み等を紹介した内容となっています。

(目標・計画等の公表の方法についても記載すること)

1 - 2 環境保全活動に関する組織体制



【 各部門 】



各部門

1. 本社 明石工場事務所
2. モーターサイクル&エンジン  
カンパニー
3. ガスタービン・機械カンパニー
4. ロボットビジネスセンター
5. 本社 技術開発本部
6. 車両カンパニー

## 2 環境保全活動の実施状況等

項目	取組結果	今後の取組計画
エネルギー対策	1. エネルギー使用量の削減/CO2排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ設備の導入</li> <li>・エネルギー使用量の見える化推進</li> <li>・明石工場省エネ委員会活動の推進</li> <li>・輸送エネルギーの削減</li> <li>・省エネパトロールの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見える化等による年間のエネルギーコスト前年度比5%以上、CO<sub>2</sub>排出量3%以上削減</li> <li>・主要材の歩留まり向上</li> <li>・電力回生、機械ロス低減</li> <li>・EMSによる熱電最適供給</li> </ul>
廃棄物対策	1. 廃棄物排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分別の徹底とゼロエミッションの維持向上</li> <li>・省資源/リサイクルの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省資源、3Rの推進</li> <li>・解体/分解が容易な構造の採用</li> <li>・電子マニフェスト100%利用</li> </ul>
グリーン調達	1. 製品含有環境負荷物質の廃止/削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州REACH規制対応、推進中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法規制対応の徹底 (RoHS指令、REACH規制等)</li> </ul>
化学物質対策	1. 有害化学物質の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替化検討による有害化学物質の削減</li> <li>・PRTR法届出物質の排出/移動量の把握</li> </ul> 2. PCB機器の適正保管と適正処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に汚染ウエスを保管中、JESCOの処理待ち</li> </ul> 3. フロン搬出抑制法の対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・当社全体で漏洩量は1,000t-CO<sub>2</sub>以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷が低減された部品/材料の調達</li> <li>・生産工程での有害化学物質の削減</li> </ul>
地域社会への参画	1. 地域、行政等の環境活動への参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場周辺の清掃活動 (年3回)</li> <li>・環境フォーラム、セミナーへの出席 (25回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会への環境貢献</li> </ul>
環境マネジメントシステムの充実	1. 環境マネジメント力の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO14001:2015年版に対応するため、内部環境監査員を対象に講習を受講させた。(全社対応)</li> </ul> 2. 環境リスクの低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクアセスメントによるリスク回避</li> </ul>
環境コミュニケーション	1. 環境情報の公開 (ホームページに掲載) <ul style="list-style-type: none"> <li>・Kawasaki Report 2016</li> <li>・Kawasaki 環境報告書 2016</li> <li>※Kawasaki Reportの詳細版となる位置付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内外への環境情報の発信</li> </ul>
環境教育	1. IT活用による環境教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境e-ラーニングの実施</li> </ul> 2. 環境啓発活動の継続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員へ講義形式による環境教育を実施</li> <li>・環境ニュース発行、環境月間行事の実施等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員への環境教育、啓発活動の推進</li> </ul>